

協議会組織による地域営農の確立

～「想いひとつに、挑戦！ 踏み出そう新たな一步を！」～

活動年次：令和3～4年度

檜山農業改良普及センター檜山北部支所

1 課題設定の背景 *****

対象：今金町金原・鈴金地区（31戸）

<ul style="list-style-type: none"> ・労働力不足や後継者不足への対応が急務 ・水稲作付面積確保のため、省力化技術の導入の要望 ・大豆の高位安定化に向けた技術確立への要望 ・ミニトマトの省力化と増収技術の導入が必要 ・肉牛の素牛資質向上による収益性の安定化への要望 		<ul style="list-style-type: none"> ◆地域協議会組織による地域営農維持 ◆所得確保に向けた生産性向上
---	--	---

2 活動の経過 *****

◆**地域協議会組織による地域営農維持**（目標→実績）
 →若手農業者による地域課題整理と話し合いの推進
 :課題解決に向け話し合い、地域協議会としての取り組み(3→3回)

◆**所得確保に向けた生産性向上**（目標→実績）
 →水稲直播栽培の安定生産:新品種の導入および省力化に向けた施肥改善(2→2戸)
 →大豆の高位安定技術確立:水稲移植作業前の早期は種と開花期追肥の実施(3→2戸)
 →ミニトマトの安定生産 :秋期の増収と労働力分散に向けた整枝法改善(1→1戸)
 →肉牛の素牛飼養管理改善:飼養状況、発育調査、粗飼料分析による飼養管理改善(3→2戸)

3 活動の成果 *****

若手農業者による地域課題整理と話し合いの推進
 ◆現地研修会、意見交換会による地域話し合い

検討会の開催回数（3回）
 作付け面積増加に向け、課題解決（省力化、収量・品質向上）への関心が高まった。

農地利用意見交換会

役員会

水稲直播栽培の安定生産

◆「えみまる」の栽培実証（2戸）

↓

「えみまる」の多収性を確認（1戸）

「えみまる」実証ほの紹介

◆追肥作業の省力化に向けた取組（2戸）

↓

「緩効性肥料・硫安の流し込み作業」導入（2戸）

緩効性肥料の施肥試験

区分	収量 (kg/10a)
試験区	522
慣行区	491

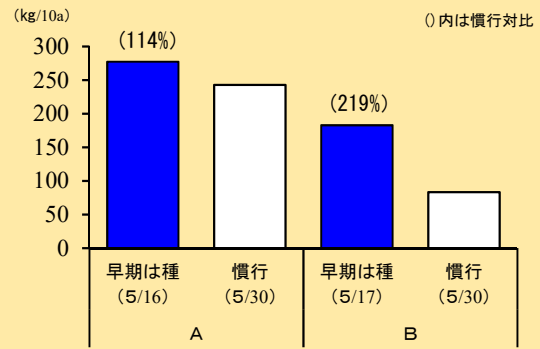
追肥作業を省力化

大豆の高位安定技術確立

◆水稲移植前の早期は種（3戸）

は種時期の遅延による大豆の収量低下を回避

早期は種の取り組み
戸数が増加！（2戸）



◆開花期追肥の実証試験（3戸）

収量及び収益の増加を確認

徒長を心配する声があったものの適切な施肥管理で倒伏は無発生、2戸で収量・収益向上を確認



農家	区分	製品収量 (kg/10a)	無追肥比較	増加粗収入 (円/10a)	差引収益 (円/10a)
A	追肥区	299	108%	7,403	5,742
	無追肥区	277			
B	追肥区	221	105%	3,365	1,704
	無追肥区	211			

ミニトマトの安定生産

◆仕立て方法の実証（1戸）

連続摘房で収量増加・労働ピーク分散！

- ・1本仕立て+連続摘房で9～10月の増収効果が最も高い
- ・実需が求める秋期の安定出荷に目処がたった

区分	収量 (kg/100坪)			粗収益 (千円/100坪)		
	7～8月	9～10月	合計	7～8月	9～10月	合計
1本仕立て+主枝切換	1,590	982	2,572	908	583	1,491
1本仕立て+連続摘房	1,772	1,028	2,800	1,006	675	1,681
2本仕立て+主枝切換	1,352	744	2,096	759	452	1,211
2本仕立て+連続摘房	1,357	872	2,229	738	536	1,274

肉牛の素牛飼養管理改善

◆飼養管理改善の提案（3戸）

発育調査で判明した問題点と市場販売価格を提示し、飼料給餌メニューを変更

素牛の栄養状態が改善！（2戸）

・子牛出生時、処置技術の定着（鉄製剤、ビタミン剤の適正投与）

・粗飼料品質の改善（優良草地維持）
（牧草刈り推進）

・腹胸比の改善（1.12→1.21）
・市場価格に反映（向上）



素牛の発育調査

4 今後の活動

- ①若手農業者による地域営農維持に向けた課題解決の取り組みを支援する。
- ②水稲直播栽培の除草体系改善支援、「えみまる」の評価について引き続き検討を行う。
- ③大豆の早期は種栽培を再度調査し、効果を確認する。
- ④肉牛の発育調査を継続する。また、良質粗飼料生産に向けた技術導入を支援する。